

# 天然歯保存におけるキーファクター

## -インプラントとの調和をどう図るか

佐藤 康訓 佐藤デンタルオフィス 院長

出身大学院：ペンシルベニア大学歯学部 歯周病学 歯周補綴学

### 講演抄録

Dr. Brånemark が無歯顎患者にチタンによるインプラントを応用してからおよそ半世紀、そしてインプラントが広く日常臨床に取り入れられる様になって四半世紀が経とうとしている。この間、ペリオにおける臨床的研究対象は、EMD に代表される歯周組織に対する再生療法に関するものから、インプラント治療で応用される GBR などに注目が集まっている。またその適応範囲も広がることで、多くのメリットを患者にもたらしてきた。それに付随し歯周補綴に対する考え方も変化した様に思われる。一方では、インプラント周囲炎に代表される様に、インプラント治療後の長期経過中に視られる、新たな側面もクローズアップされている。天然歯とインプラントの間には生理的な違いもあり、そのメンテナンスには一層の注意喚起がなされている。そこで、今一度原点に戻り、天然歯保存に関わるファクターを整理し、その中でのインプラントの役割について論じてみたい。